

## 人権パネル展

### 【とき】

6月8日(火)～24日(休)  
午前9時～午後5時  
※土・日曜日を除く

### 【ところ】

いがまち人権センター ホール

### 【テーマ】

『知ってる!? ケータイやインターネットも使い方ひとつで…』  
このパネル展では、子どもたちが携帯電話やインターネットを利用する際の必要な知識、心構え、そして周囲の大人が知っておくべき対処方法などを、人権の観点から紹介します。

### 【問い合わせ】

いがまち人権センター  
☎ 45-4482 FAX 45-9130

## 男女共同参画パネル展

毎年、6月23日から29日の一週間は、男女共同参画強調週間です。伊賀支所住民福祉課では、この週間にあわせ、伊賀支所玄関ホールで『男女共同参画パネル展』を開催します。

### 【とき】

6月23日(水)～29日(火)

### 【ところ】

伊賀支所 玄関ホール

### 【問い合わせ】

伊賀支所住民福祉課  
☎ 45-9108 FAX 45-9120

## 三重大学産学官連携セミナー in伊賀2010

三重大学伊賀研究拠点では大学の知と伊賀地域ならびに企業との連携を進めて地域活性化を推進するために市民参加型のセミナー「三重大学産学官連携セミナー in伊賀2010」を開催します。

### 【とき】

※受付：午後1時開始

7月16日(金) 午後1時30分～

### 【ところ】

ヒルホテルサンピア伊賀

4階 白鳳の間

### 【内容】

#### ■講演①

『産学官連携に向けて』

京都大学 元総長 沢田 敏男さん

(文化勲章受章者・伊賀市名誉市民)

#### ■講演②

『三重大のこれから』

三重大学 学長 内田 淳正さん

#### ■報告

『菜の花プロジェクトから生まれた新製品紹介』

伊賀市産業建設部農林振興課 主幹

兼振興係長 小林 康志さん

三重大学伊賀研究拠点 教授

山本 好男さん

### 【問い合わせ】

三重大学伊賀研究拠点

☎ 41-1071 FAX 41-1062

商工労働観光課

☎ 43-2306 FAX 43-2311

農林振興課

☎ 43-2302 FAX 43-2305

## お知らせ 教育相談

子育てに関する悩みやお子さんの就学について、教育相談を実施します。

【とき】 7月21日(水)、22日(木)  
23日(金)、27日(火)

【ところ】 ゆめぼりすセンター

【申込締切日】 6月25日(金)

※幼稚園・保育所(園)・小中学校に通っているお子さんについては、それぞれの園・所・学校を通じてお申し込みください。

### 【申込先・問い合わせ】

教育委員会学校教育課

☎ 22-9676 FAX 22-9691

## お知らせ 平成22年度開始 中山間地域等直接支払制度 第3期対策事業説明会

### 【とき】

6月12日(土) 午後2時～

【ところ】 あやま文化センター

さんさんホール

【対象者】 (1集落代表2人以内)

①この制度に第1期、第2期から取り

組んでおり継続を希望する集落

②新規で取り組みを希望する集落

※新規で希望する場合、中山間地域

等直接支払交付金実施要領(平成

22～26年)に基づき、対象地

域や対象者に制限がありますので、

詳しくはお問い合わせください。

【問い合わせ】 農林振興課

☎ 43-2302 FAX 43-2313

## 聴診器 市民病院だより

\*\*\*\*\*

## 小児用肺炎球菌ワクチンについて

小児科 川口 寛



肺炎球菌はのどから体に入り、肺炎・中耳炎・菌血症・敗血症・髄膜炎などの感染症を引き起こします。

この菌により、小児、特に2歳以下の小児では、脳を包む膜にこの菌がつく細菌性髄膜炎が多くみられ、全国で年間200人くらいの小児に発生がみられます。亡くなる人が10%前後、発達・知能・運動障害、難聴(聴力障害)などの後遺症が30～40%ほどみられます。

また近年抗生物質が効きにくい耐性肺炎球菌の割合が増えてきており、耐性菌により中耳炎を繰り返す例などがみられ、治療が困難な場合もあります。

「治療より予防」の考え方から、以前この欄で紹介させていただきましたHib(インフルエンザ桿菌typeB)ワクチンに続き、この肺炎球菌に対する小児用肺炎球菌ワクチン(不活化ワクチン)が2月から発売になりました。

このことにより、小児の細菌性髄膜炎の発症

予防がより可能になると考えられています。

肺炎球菌ワクチンの接種方法ですが、生後2カ月以上9歳以下の小児が対象になります、特に5歳未満のお子さんはすぐに受けるのがよいと考えます。ワクチンの接種回数は年齢により異なります。

①生後2～6カ月までの乳児は4週間以上の間隔で3回接種し、1歳を超えた時期に追加接種を行う方法で合計4回です。②7～11カ月までの乳児は4週間以上の間隔で2回接種し、1歳を超えた時期に追加接種を行う方法で合計3回です。③1歳の小児は、60日以上の間隔で2回の接種、2～9歳までの小児は1回の接種です。DPT(三種混合)ワクチン、Hibワクチンとの同時接種も可能です。

現在のところ、任意接種のワクチンですので費用がかかります。詳しい情報はかかりつけの先生にお尋ねください。



## 募集 地域福祉計画策定に向けた テーマ別検討メンバー

地域福祉計画は、平成 18 年 6 月に、平成 22 年度までの 5 年間の第一次計画を策定しました。

平成 23 年度からの第二次計画は、自分たちのまちにふさわしい福祉を市民の皆さんと考えていくために計画策定に向けたテーマ別検討メンバーを募集します。

### 【検討テーマ】

- 総合相談支援について
- 安住の地域づくりについて
- 高参加・高福祉について
- 福祉でまちづくりについて

### 【募集期間】

6月1日(火)～21日(月)

### 【募集内容】

伊賀市地域福祉計画策定に向けたテーマ別検討メンバー

### 【申込方法】

市ホームページをご覧ください。か、介護高齢福祉課および各支所住民福祉課に備え付けの用紙に記入後、各窓口へ直接お申し込みください。郵送、FAX または E メールでも受け付けます。

### 【申込先・問い合わせ】

〒518-8501

伊賀市上野丸之内 116 番地

伊賀市健康福祉部介護高齢福祉課

☎ 26-3940 FAX 26-3950

☒ kaigo@city.iga.lg.jp

## 募集 夏休み中の障がい児童の 日中支援について

障がいのある小学生を対象に、夏休みの中の日中一時支援事業を行います。

【対象者】 障がいのある小学生

### 【と き】

7月21日(火)～8月31日(火)

午前9時30分～午後4時

※土・日曜および8月13日(金)を除く。

※申込日により人数調整する場合があります。

【ところ】 阿山保健福祉センター

【利用者負担】 原則、給付費の1割

【申請期限】 6月25日(金)

【申請先・問い合わせ】 障がい福祉課

☎ 22-9657 FAX 22-9662

## 募集 にこにこエアロ始めませんか

### 【と き】

毎週日曜日 午後2時～60分間

### 【ところ】

青山保健センター 運動施設

### 【持ち物】

室内用運動靴、運動のできる服装

【対象者】 中学生以上の人

※参加費など詳しくはお問い合わせください。

※初めての人は最初に利用講習会を受けてください。

### 【問い合わせ】

青山保健センター 運動施設

受付：午前10時～午後7時

☎ 52-4100 月曜休館

## 青山公民館図書室 公開講座『おはなし広場』

### ■第1回

『楽しいお話しがやってくる!!』

エプロンシアター・パネルシアターと大きな絵本の読み聞かせ

### 【と き】

6月23日(水) 午前10時30分

### 【問い合わせ】

青山公民館

☎ 52-1110 FAX 52-1211

## 募集 心身障がい児者 ボランティア講座

伊賀市社会事業協会では、伊賀市からの委託により、講義と体験・見学を通してボランティア活動の理念を学び、心身障がい児者への支援活動を行うボランティアの育成を目指して、次のとおり講座を開催します。

### 【と き】

■開講式：6月26日(土)

平成23年2月まで全8回

土曜日 午前10時～正午

【ところ】 かしの木ひろば

【申込期限】 6月24日(木)

【申込先・問い合わせ】

〒518-0851

伊賀市上野寺町 1184 番地の 2

(福) 伊賀市社会事業協会

生活介護事業所 かしの木ひろば

☎/FAX 21-2745

☒ kashinoki@iga-sjk.or.jp



～差別をなくしていくために～

## 当事者だから気づくこと —青山支所住民福祉課—

■このコラムは毎回いろいろなテーマで人権についてお話しています

足の手術を受け、ひと月ばかり入院しました。手術後しばらくの間は、ベッドから起き上がることはもちろん、膝の曲げ伸ばしすらできませんでした。自分の足なのに思いどおりにならず、自由に歩くことができないもどかしさを感じた毎日でした。

しかし、それと同時に普段は忘れがちな自分の身体のことを考え、健康で元気に毎日を過ごせることが、何よりも代えがたいことであるとの思いも新たにしました。

私は、今回の入院で初めて車イスに乗りました。最初は方向転換もうまくできませんでしたが、少し慣れてくるとエレベーターを使って移動することができるようになりました。私が一人で乗り込むと必ず誰かが「何階ですか。」と尋ねてくれたり、降りるときには私が出て行くまで開ボタンを押し続けてくれたりしました。病院の中とはいえ、エレベーターに乗るたびに人のやさしさを実感しました。

すると、それまでは気にも留めず、私にとっては何

でもなかったようなことがいろいろと気になりだしました。少しの段差やスロープ、またトイレの広さや洗面台の高さなど、車イスに乗ったからこそ感じるものでした。私が入院した病院は、少し気をつければ建物の中は問題なく移動することができました。しかし、建物の外にはあちらこちらに段差などがあり、とても独りで外出する気にはなりませんでした。

私たちの身の周りの生活環境は、まだまだ車イスを使って生活をしている人々の立場や気持ちを考えて整備がされているとは言えません。公共施設や福祉施設でさえ、完全にバリアフリー化がされているわけでもありません。しかし、私たちにもすぐにできることはあります。例えば、歩道には通行の妨げになるような物を置かないとか、車イスの高さに合わせた案内表示をするなど、みんなでもう一度、身の回りを点検しながら、できることからやっていくことが大切なのです。